

# 2009年度(2010年3月期) 第3四半期 決算説明会

---

2010年 1月29日

**セイコーエプソン株式会社**

© Copyright Seiko Epson Corporation 2008



## ■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競争、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

## ■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

## 「その他の事業」セグメントに含まれる「胎内育成事業」の一部変更について

- 将来の事業化を目指していた、「その他の事業」セグメントに含まれる「胎内育成事業」の一部を、3月に発表したデバイス事業の構造改革の方向性に沿って全社の基礎研究開発へと役割を変更
- それにともない、2009年度以降のセグメント損益の開示値を変更
- 2009年度予想の説明において、前年度を比較対象とする場合は、2008年度のセグメント損益もあわせて補正

2

- 
- 2009年度から、「その他の事業」セグメントに含まれる胎内育成事業の一部につき、変更。

1) 2009年度 第3四半期決算

2) 2009年度 業績予想

## ■外部環境の認識

- 前回(10月29日)の業績予想発表以降、各国の景気刺激の政策効果もあり徐々に市場環境は回復に向かっている
- 企業の投資意欲も少しずつ回復傾向
- 第4四半期における不透明感は薄らいでいる

## ■主要事業の状況

企業向けビジネスの投資意欲が徐々に回復、  
電子デバイスの需要は第3四半期まで継続、第4四半期は通常のシーズンナリティ

### 【情報関連機器】

- コンシューマー向けは、競争力の高い製品投入により堅調に推移  
⇒ 2010年度における、更なる業績回復・収益基盤の強化に向け第4四半期においても本体の積極的な販売施策を展開。

- ビジネス向けは、POS関連製品、プロジェクター市場の回復

### 【電子デバイス機器】

- プロジェクター用HIPS、水晶デバイス、半導体は12月までの需要は堅調
- 第4四半期は通常のシーズンナリティの見込みであるが、稼働率は維持

4

- 事業環境について。
  - 第3四半期は、各国の景気刺激策の効果による景気の下げ止まり感もあり、徐々に市場環境は回復。
  - 特に、懸案であったビジネス用途向けの市場については、企業の投資意欲が戻り始め、ビジネスシステムやプロジェクターは堅調に推移。
  - またコンシューマー向けのインクジェットプリンターについても引き続き、アジア向けが堅調に推移し、先進国の年末商戦も活況。
  - 各国市場での商戦立ち上がりのタイミングや競争環境の違いによる強弱があったため、数量は計画には届かなかったものの、全般的に堅調に推移。
  - 電子デバイスについても、懸念されていた第3四半期後半からの需要の大きな減退は今のところ見られず、稼働率は比較的維持したまま、通常のシーズンナリティで第4四半期を向かえている。
  - 2009年度は、中期経営計画の初年度として、2010年度以降を成長軌道に乗せるための重要な年として位置づけ。期初計画である年間経常利益ブレークイーブンについては為替効果などもあり、現時点において上回る見込み。引き続き、残された年度の中で、来期の飛躍を一層加速させるための取り組みを着実にこなす。

## 決算ハイライト(9ヶ月通算) ▶ 前年同期比



9ヶ月通算 (億円)		2008年度		2009年度		増減	
		通算	%	通算	%	増減額	増減率
売上高		9,063	-	7,381	-	-1,682	-18.6%
営業利益		327	3.6%	221	3.0%	-105	-32.2%
経常利益		375	4.1%	164	2.2%	-211	-56.2%
税引前利益		197	2.2%	74	1.0%	-122	-62.1%
期間純利益		118	1.3%	△47	-0.6%	-166	-
EPS		60.55円		△23.82円			
換算 レート	USD	102.84円		93.56円			
	EUR	150.70円		132.99円			

5

- 2009年度第3四半期までの9ヶ月通算の状況について。
- 売上高は 前年同期比 18.6%減収の 7,381億円。
- 利益面については、  
今年度通算で黒字へと転換し、  
営業利益は 221億円、  
経常利益は 164億円。

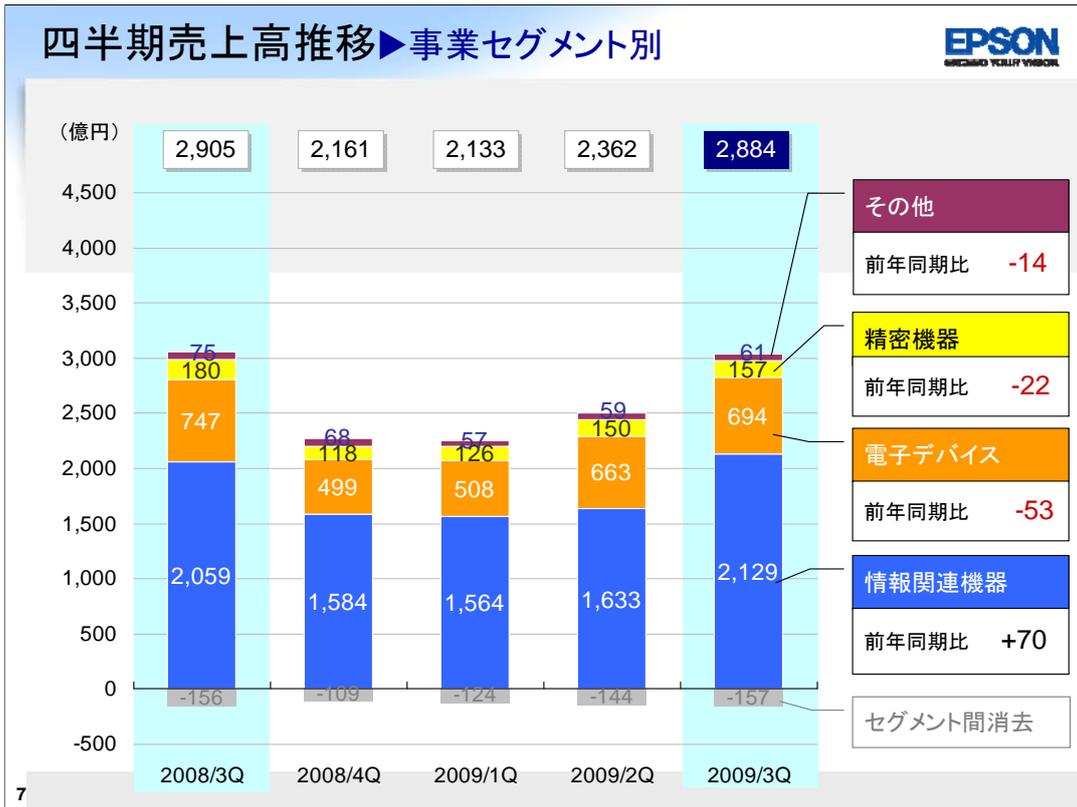
## 決算ハイライト(第3四半期決算)▶前年同期比



(億円)	2008年度		2009年度		増減	
	3Q実績	%	3Q実績	%	増減額	増減率
売上高	2,905	-	2,884	-	-20	-0.7%
営業利益	46	1.6%	314	10.9%	+267	+570.1%
経常利益	100	3.5%	308	10.7%	+208	+207.3%
税引前利益	△6	-0.2%	278	9.7%	+285	-
四半期純利益	1	0.1%	244	8.5%	+242	-
EPS	0.86円		122.36円			
換算 レート	USD	96.32円	89.71円			
	EUR	126.74円	132.68円			

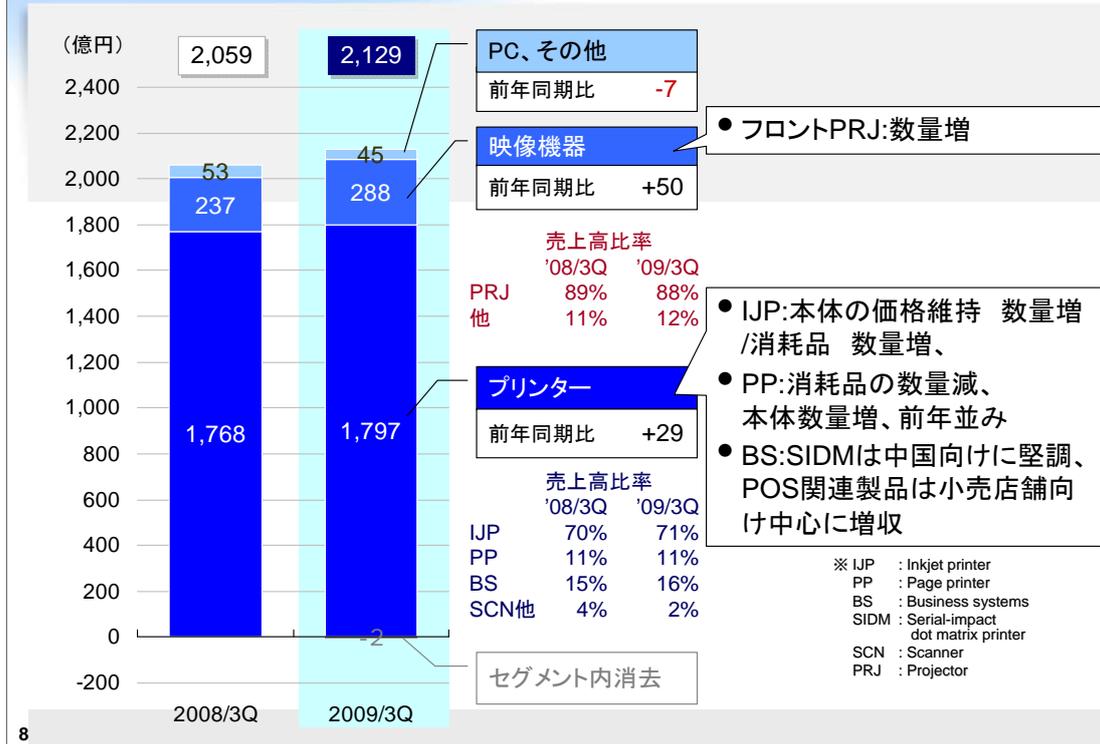
6

- ▶ 第3四半期実績について。
- ▶ 売上高は、ほぼ前年同期並の 2,884億円、  
営業利益は 267億円増益の 314億円、  
経常利益は 208億円増益の 308億円、  
純利益は 242億円増益の 244億円。
- ▶ 前年同期と比べ、為替の円安効果に加え、デバイス構造改革や  
全社をあげた費用削減などの収益改善施策への取り組みにより  
大幅に収益改善。  
また第2四半期からも、シーズナリティーがあるものの、確実に回復。



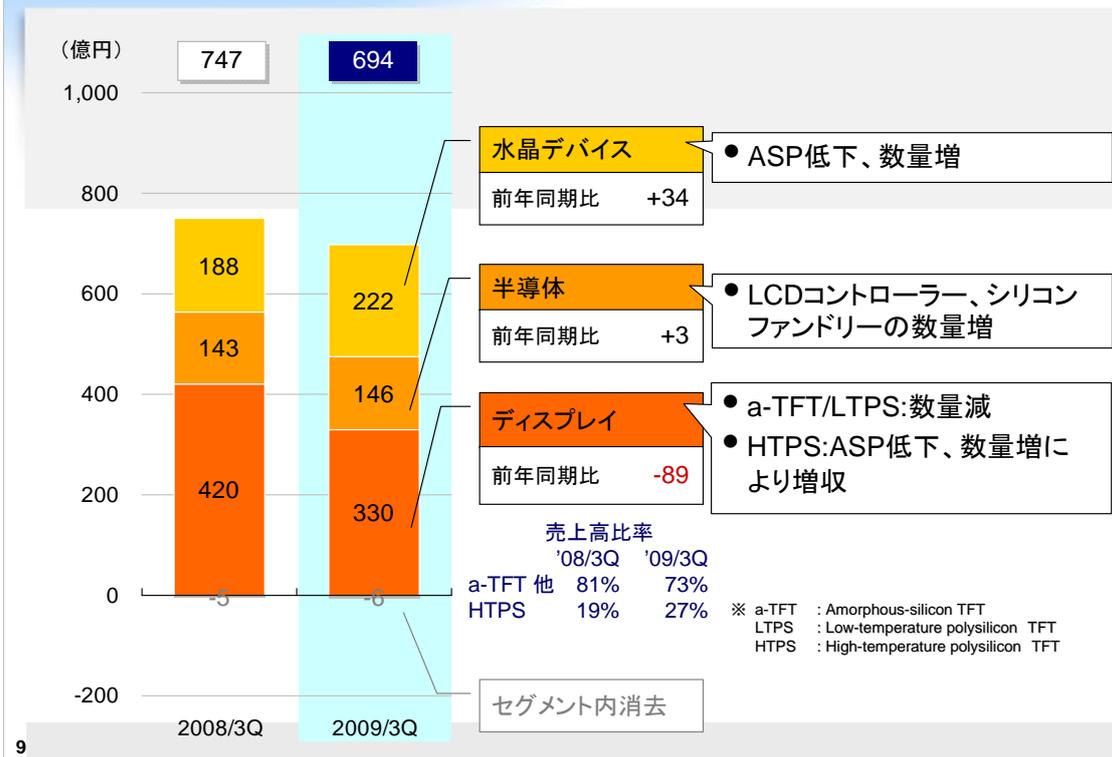
- ▶ 事業セグメント別の 四半期 売上高推移。
- ▶ 情報関連機器は、前年同期比 70億円の増収、電子デバイスは、前年同期比 53億円の減収、精密機器は、前年同期比 22億円の減収。

## 四半期売上高比較▶情報関連機器セグメント

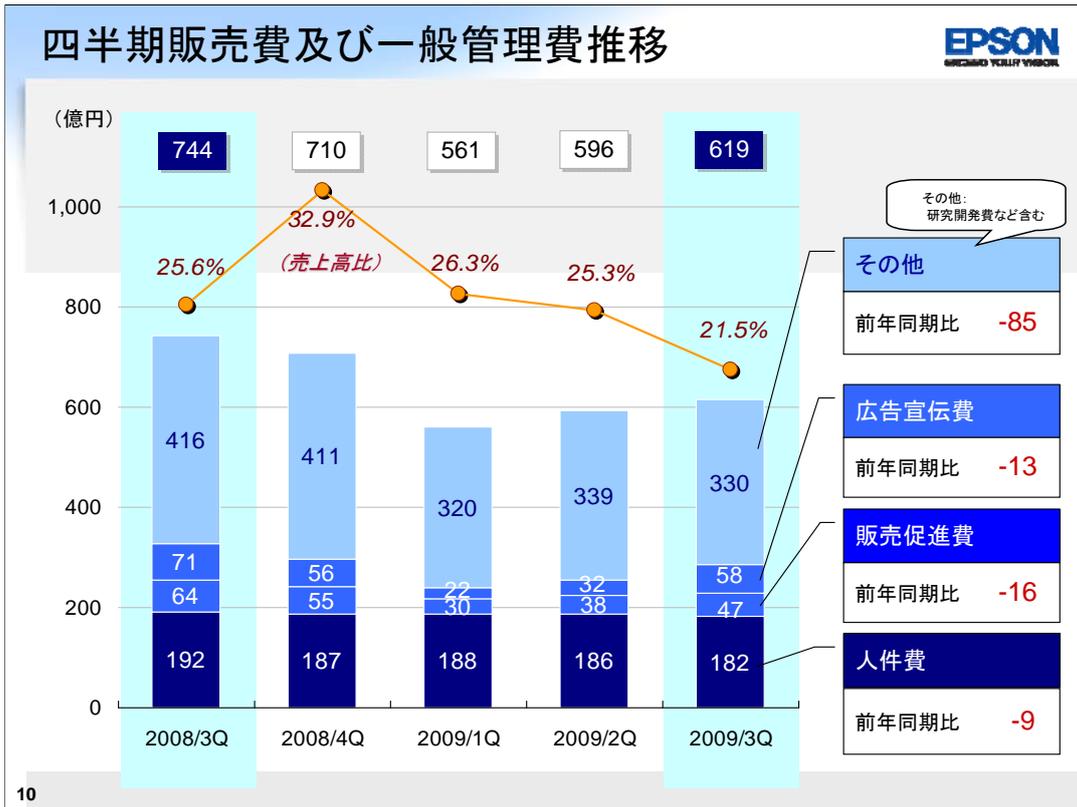


- 情報関連機器事業セグメントの第3四半期売上高について、事業別に前年同期と比較。
- プリンター事業は、前年同期比 29億円の増収。
- インクジェットプリンターは、本体の価格の維持・数量増 ならびに消耗品の数量増加により、前年同期の売上高を上回った。
- 本体の各マーケットの動向は、アジアを除いて市場は前年割れとなったが、アメリカ、日本などは回復の兆し。そうした中、当社の本体の地域別状況は、欧州や日本においては前年に比べ数量は届かなかったものの、アメリカ、アジアにおいて数量を伸ばした。
- ページプリンターは、入札案件獲得など、拡販への積極的な取り組みなどにより、本体は 欧州、アジア市場においては数量を伸ばしたが、ASPが低下したことに加え、消耗品が数量減となったことなどにより、前年並み。
- ビジネスシステムは、SIDMが中国市場向けを中心に数量が引き続き堅調だったことに加え、POS関連製品が欧米の小売店舗向けの販売数量が増加したことにより、増収。
- 映像機器は、教育市場やビジネス市場向けプロジェクターの販売が堅調に推移したことにより、今第3四半期において過去最高の販売数量を達成し、全ての地域において前年同期の数量を上回り、増収。

## 四半期売上高比較▶電子デバイスセグメント

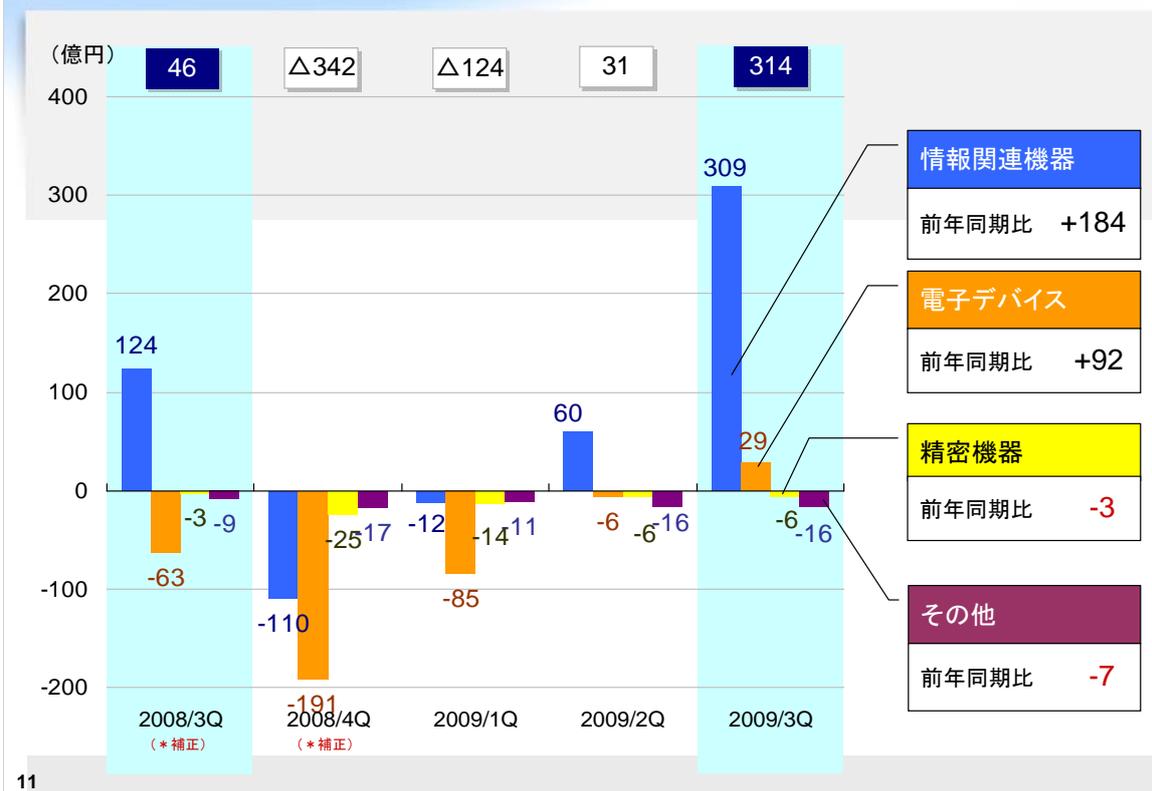


- ▶ 電子デバイス事業セグメントの 前年同期比較について。
- ▶ ディスプレイ事業は、前年同期比 89億円の減収。
- ▶ モバイル用の中・小型液晶ディスプレイについては、第3四半期に入り、景気の後退感も徐々に薄らいできているものの引き続き、市場環境悪化の影響を受けた。
- ▶ アモルファスTFTとLTPSは、スマートフォン向けは数量の増加によるASPの上昇があったものの携帯電話向けや、デジタルカメラ向けの数量が減少したことにより、減収。
- ▶ プロジェクター向けのHTPSは、ASPが低下したが、数量増により増収。
- ▶ 水晶デバイスは、前年同期と比較すると、ドル安による為替の影響や、ASPの低下はあるものの、センシングデバイスを中心に数量が増加したことにより、増収。
- ▶ 半導体は、前年同期と比較するとLCDコントローラーやシリコンファクトリーの数量が増加したことにより増収。



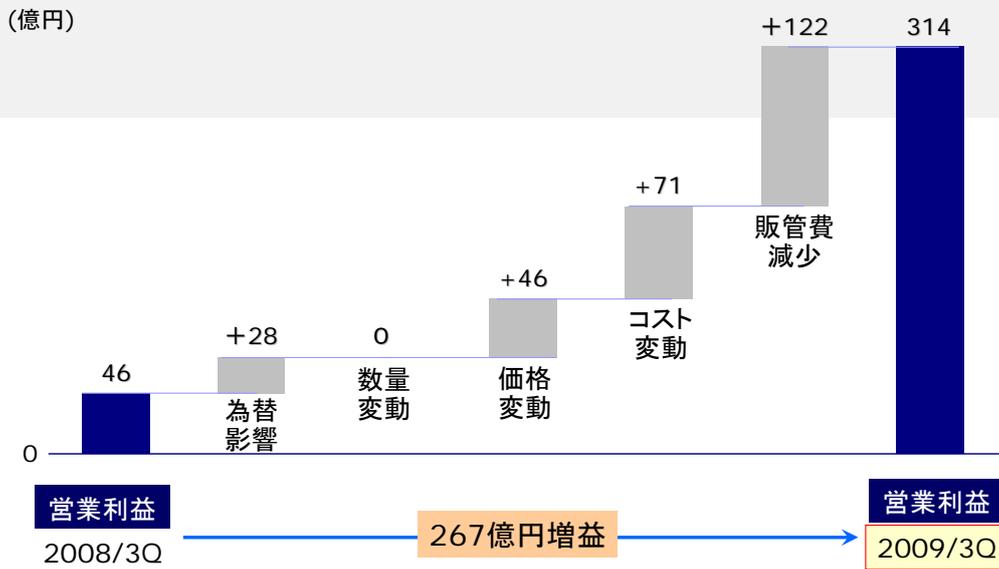
- 販売費及び一般管理費の四半期推移について。
- 前年同期と比較して、研究開発費や、販売促進費、広告宣伝費を中心に、費用の効率化、削減を進めたことにより、125億円の減少。

## 四半期営業利益推移▶事業セグメント別



- ▶ 事業セグメント別の営業利益推移について。
- ▶ 情報関連機器は、前年同期比184億円増益の 309億円の営業利益となった。
- ▶ インクジェットプリンターは、  
本体のプラットフォーム共通化によるコストダウン、  
および 事業全般における費用の効率化を徹底的に進めたことにより、  
増益。
- ▶ ページプリンターは固定費削減により、またビジネスシステム、映像機器は、  
増収ならびに固定費削減により増益。
- ▶ 電子デバイスは、前年同期と比べ92億円改善の29億円の黒字となった。
- ▶ 前年度に事業構造改善費用と減損損失を計上したことともなう  
減価償却費の減少などに加え、  
水晶デバイス事業、半導体事業において数量の増加による稼働率の向上などもあり  
ディスプレイ事業を含む全ての事業において黒字、増益。

## 営業利益増減要因分析



12

- 営業利益の前年同期比での増益額 267億円の要因を分解。
- 2008年度 第3四半期の営業利益 46億円に対し、販管費減少、コスト変動を中心に全て増益要因となり、当四半期営業利益は 314億円。



- 貸借対照表の主要科目について。
- 総資産は、  
 売上増にともない売掛金や 棚卸資産が増加した一方、  
 設備投資の削減による固定資産の減少、ならびに有価証券の減少により、  
 前期末と同じ水準。

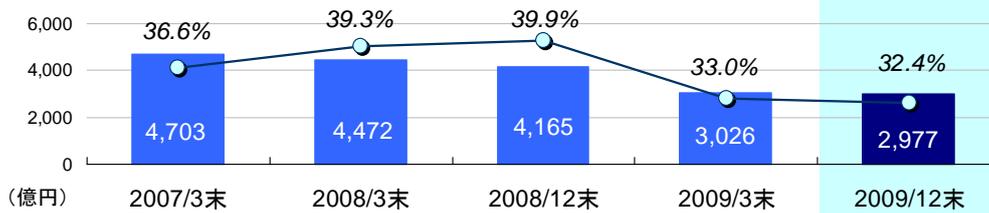
## 貸借対照表主要項目推移



### 有利子負債・有利子負債依存度



### 自己資本・自己資本比率



\*有利子負債=2008年度からリース負債を含む  
\*自己資本=純資産合計-少数株主持分

14

- - 有利子負債は、前期末に比べて、158億円減少。  
総資産の有利子負債依存度は 36.5%。  
ネット有利子負債は、844億円。
  - 自己資本は 48億円減少し、自己資本比率は32.4%。

1) 2009年度 第3四半期決算

2) 2009年度 業績予想

## 2009年度業績予想

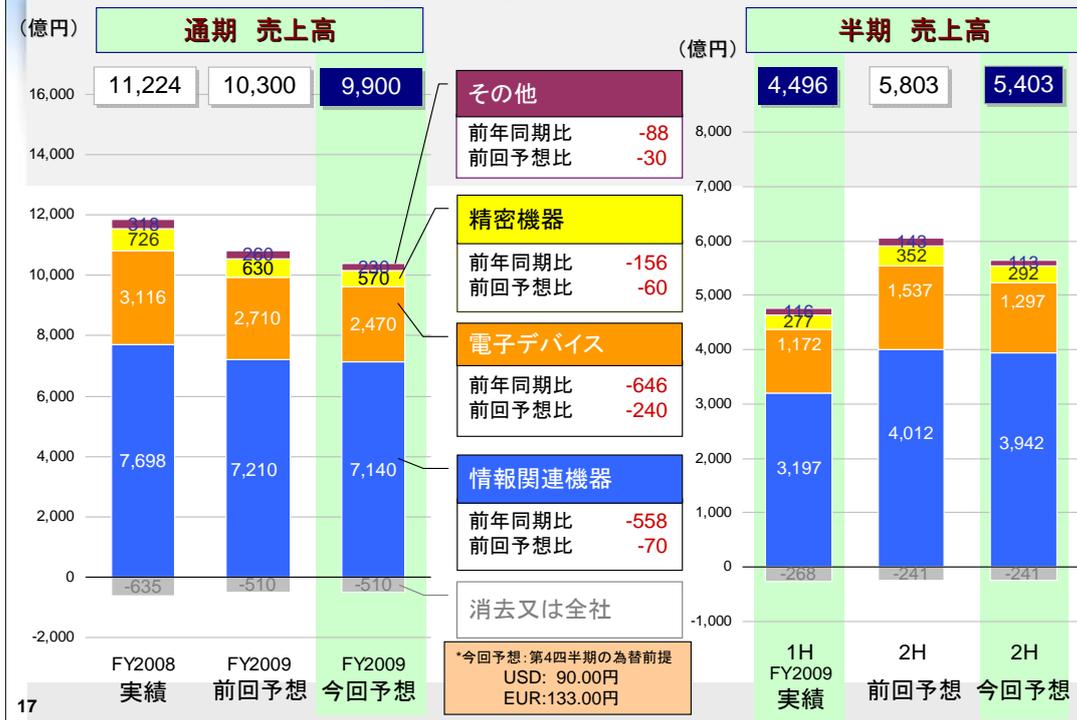


(億円)	2008年度		2009年度				増減額 増減率	
	実績	%	前回予想	%	今回予想	%	前期 実績比	前回 予想比
売上高	11,224	-	10,300	-	9,900	-	-1,324 -11.8%	-400 -3.9%
営業利益	△15	-0.1%	30	0.3%	200	2.0%	+215 -	+170 +566.7%
経常利益	53	0.5%	0	0.0%	130	1.3%	+76 +145.2%	+130 -
税引前利益	△895	-8.0%	△45	-0.4%	0	0.0%	+895 -	+45 -
当期純利益	△1,113	-9.9%	△85	-0.8%	△210	-2.1%	+903 -	-125 -
EPS	△566.92 円		△42.67 円		△105.41 円			
換 算 レ ー ト	USD	100.53 円	94.00 円		93.00 円		*今回予想:第4四半期の為替前提 USD: 90.00円 EUR:133.00円	
	EUR	143.48 円	132.00 円		133.00 円			

16

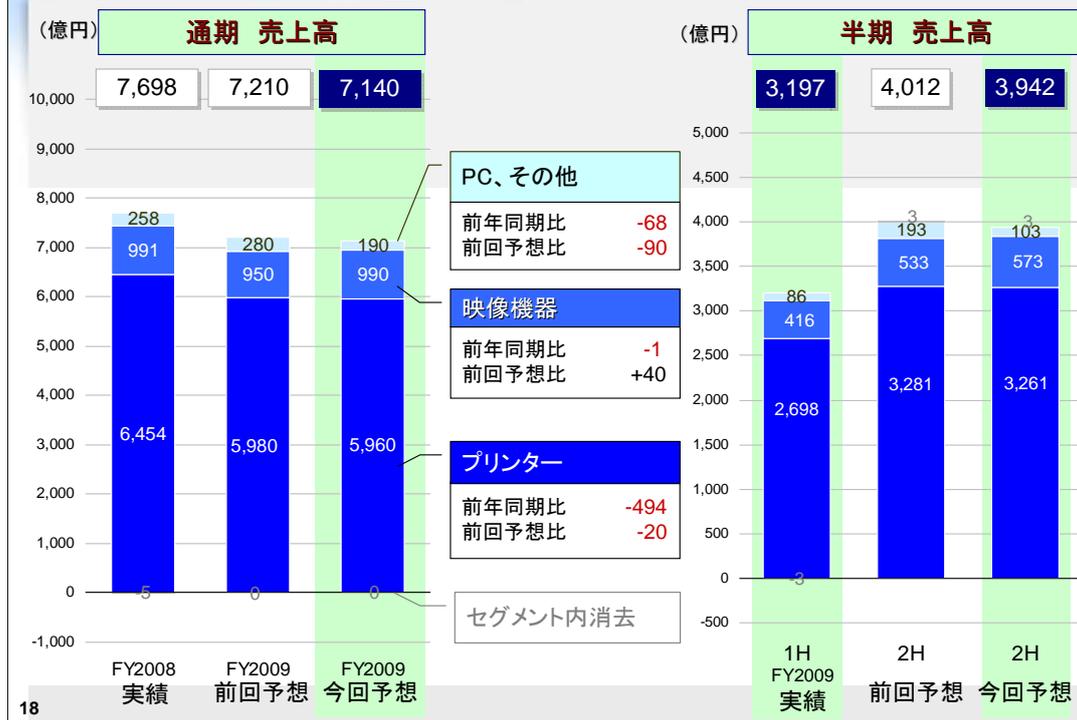
- 2009年度の予想について。
- 第4四半期の為替前提を、USDドル 90円、ユーロ 133円に見直し、第3四半期の実績を踏まえ、通期の業績予想を修正。
- 第4四半期は、2010年度における更なる業績回復、収益基盤の強化に向け、インクジェットプリンター本体の販売施策を積極的に展開し、消耗品による収益貢献に結び付ける。
- そのため、商戦期の第3四半期に比べ、情報関連機器セグメントにおいて一時的な収益性低下が見込まれるが、本体のプラットフォーム共通化や費用効率化によるコストダウン効果もあり、景気後退による大きな影響を受けた前年同期に比べ、大きく改善する見込み。
- また電子デバイスセグメントにおいても、第3四半期に比べ、シーズンリティによる売上高の減少により小幅な損失が見込まれるが、前年度に対しては、売上と稼働率の改善が見込まれるため、損益改善が見られる予定。
- 以上の結果、  
通期の売上高は、前回予想から400億円減収の 9,900億円  
営業利益は、前回予想から 170億円増益の 200億円、  
経常利益は、ブレイクイーブンの予想から 130億円に修正。
- なお、当期純利益は繰延税金資産の取り崩しなどにより、210億円の損失を予想。

# 2009年度業績予想(売上高)▶事業セグメント別



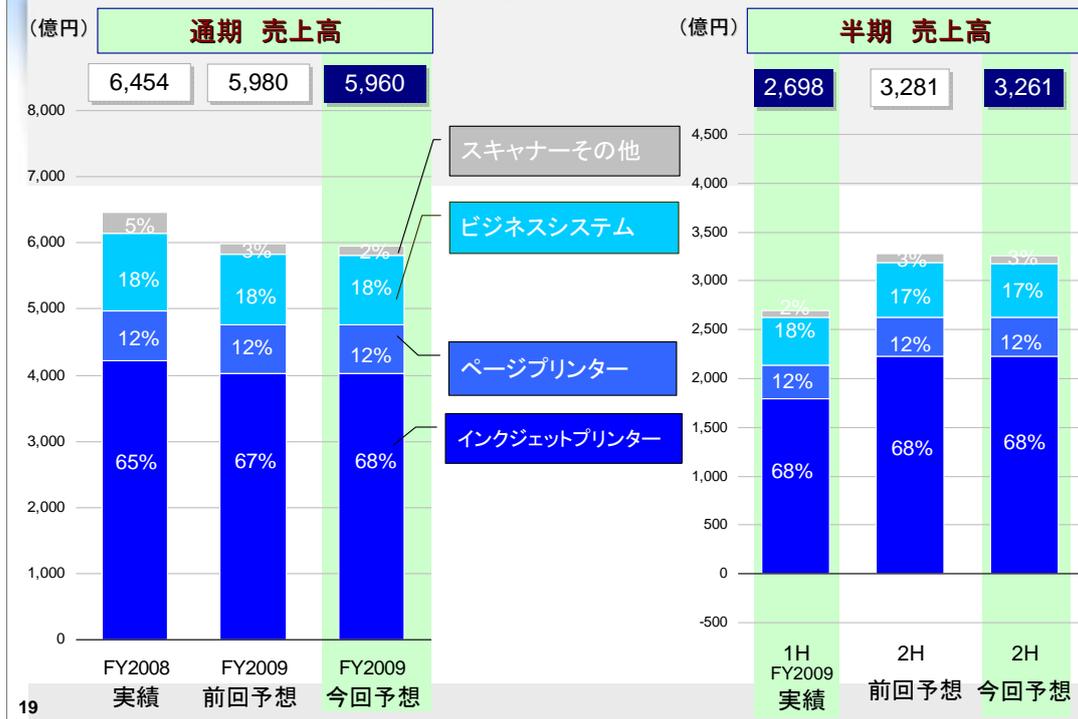
- 事業セグメント別の売上高予想について。

## 事業別売上高予想▶情報関連機器セグメント



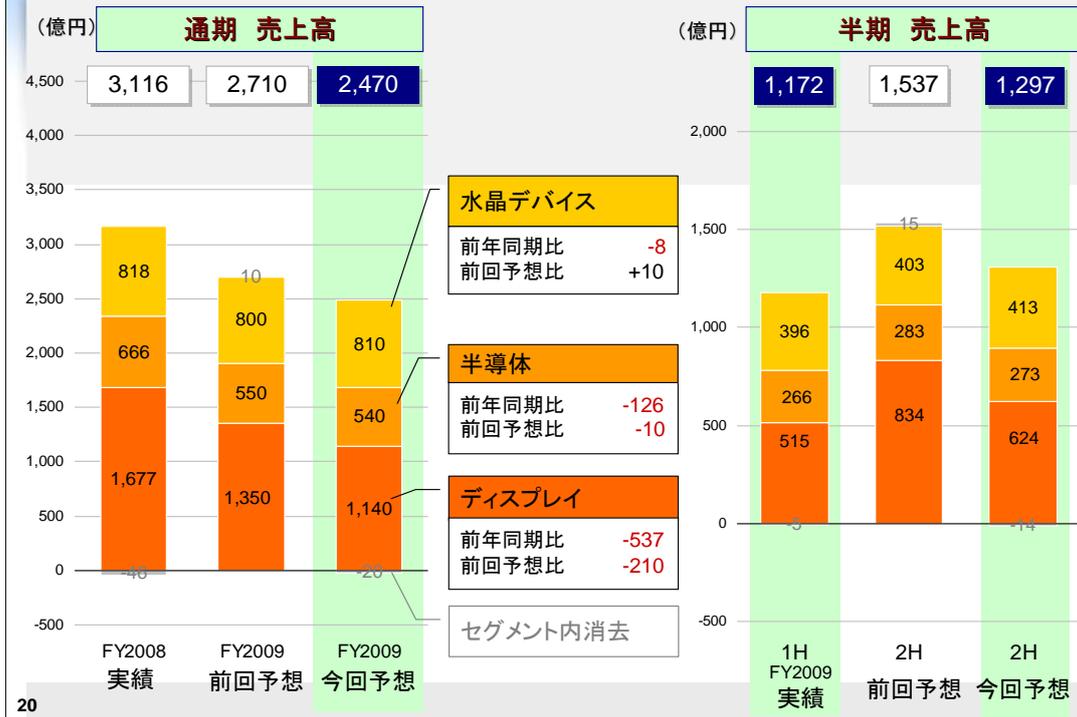
- 情報関連機器セグメントの事業部門別売上高予想の内訳について。

## 事業別売上高予想▶プリンター事業



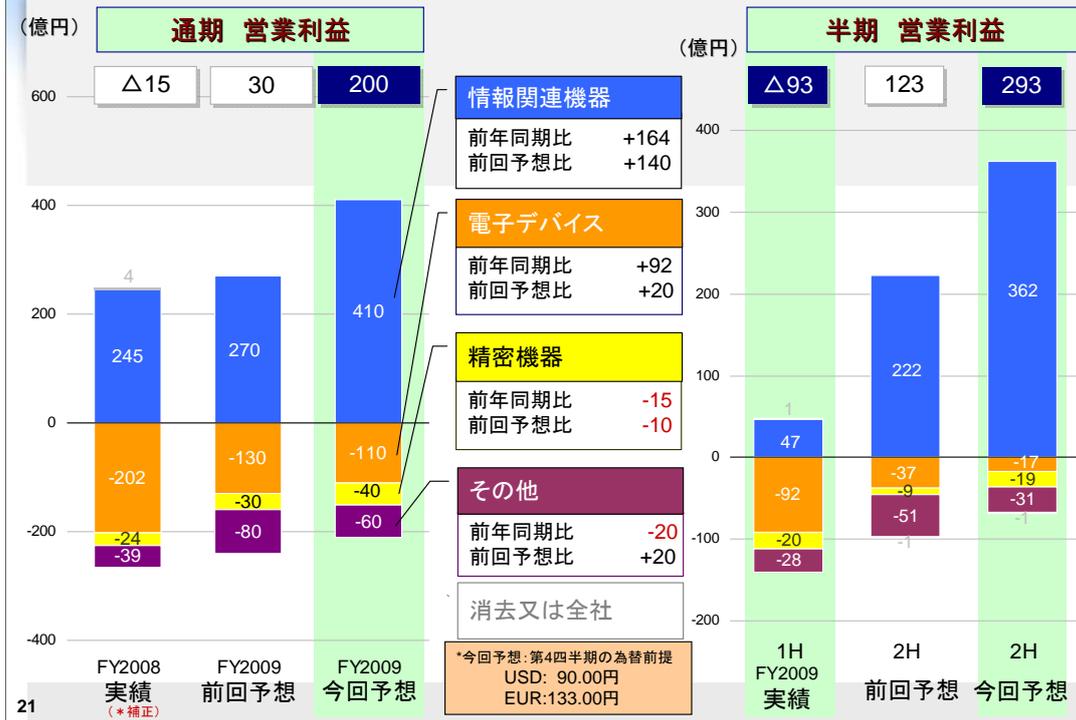
- プリンター事業の売上高予想について。

# 事業別売上高予想▶電子デバイスセグメント



➤ 電子デバイスセグメントの事業部門別売上高予想の内訳について。

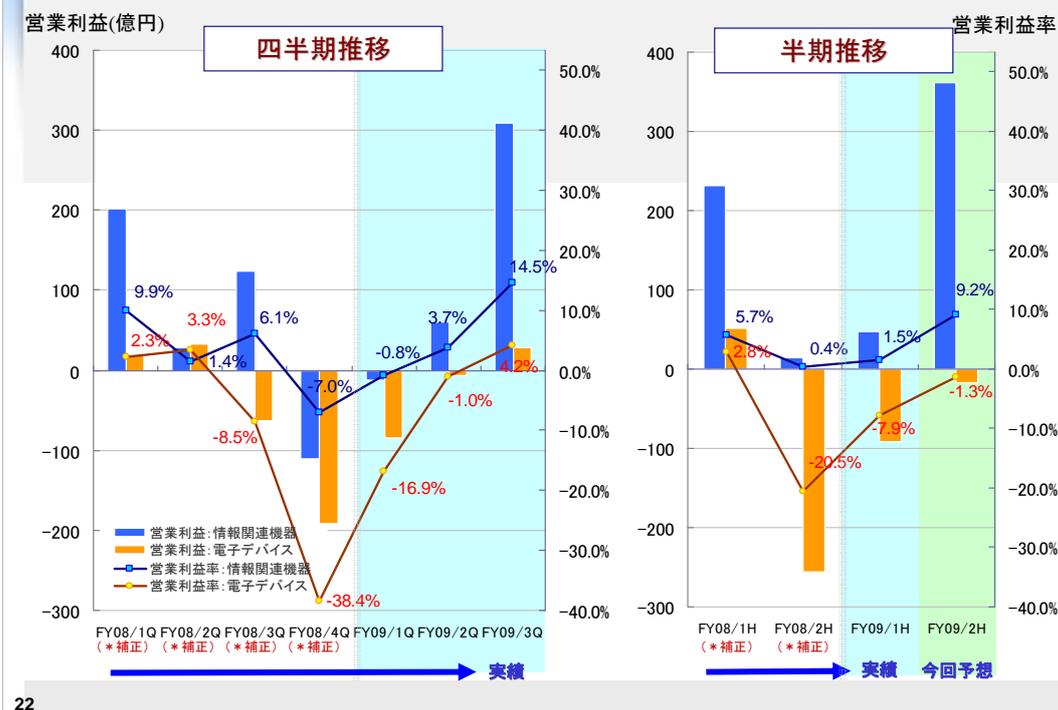
# 2009年度業績予想(営業利益) ▶ 事業セグメント別



➤ 事業セグメント別の営業利益予想について。

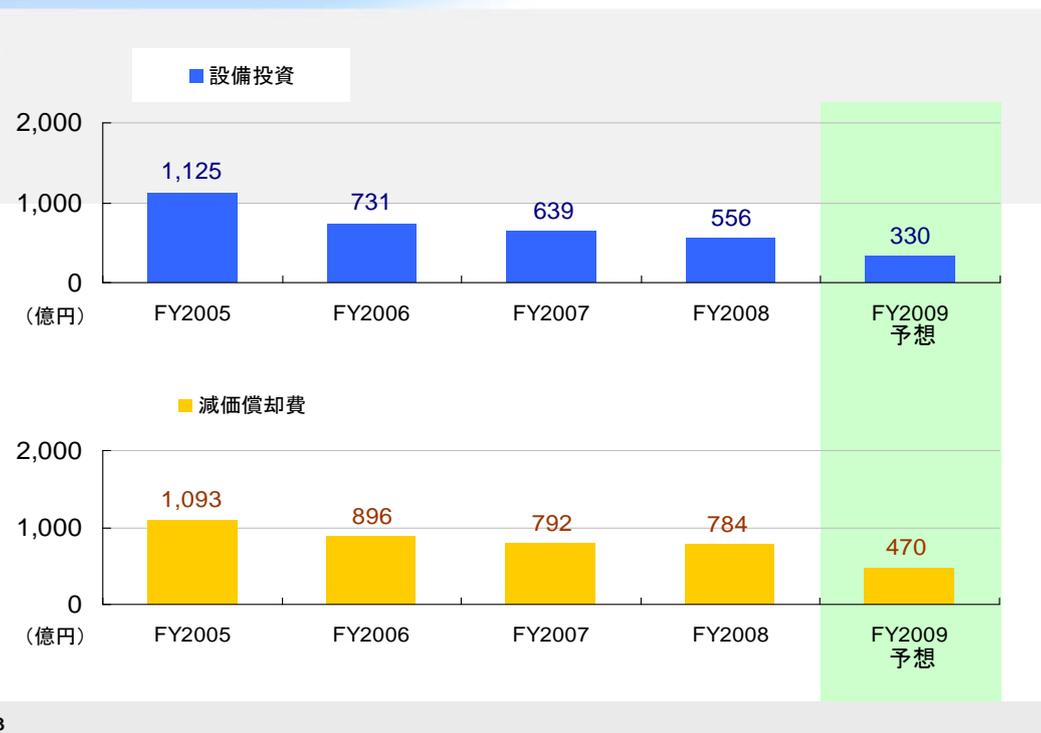
## 営業利益の推移

EPSON  
EXCEED YOUR VISION



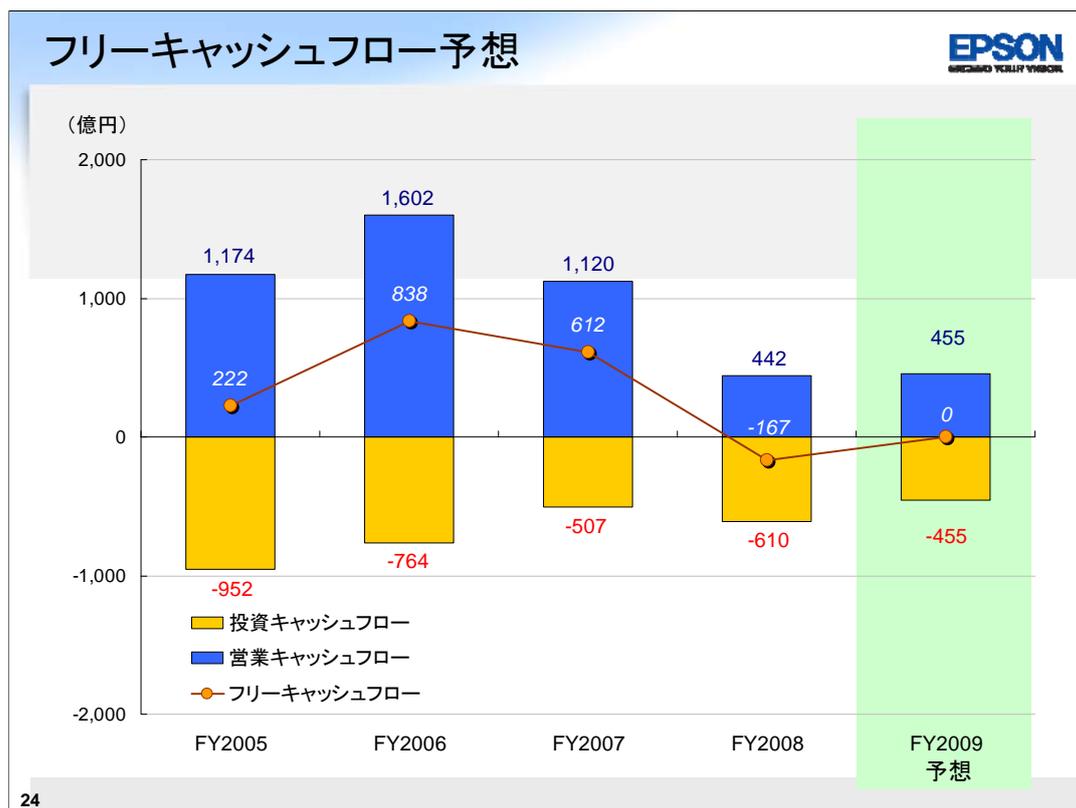
- 情報関連機器セグメントと電子デバイスセグメントの営業利益推移について。
- 情報関連機器、電子デバイスともに、  
 昨年の下期から景気後退の影響を継続して受けてきたが、  
 電子デバイスの構造改革、全社を挙げた固定費削減や、  
 コストを含めた製品の競争力強化に取り組んできたことにより、  
 収益性は改善の方向。
- 下期については前年と比較して、約600億円の収益改善を見込む。  
 この結果、当初の目標である、予算レートによる実カベースでの  
 経常利益プレークイープンの達成も視野に入ってきた。
- 引き続き、残された年度において、  
 2010年度に向け、更なる業績の改善を果たせるように、  
 足元の施策に着実に取り組む。

## 設備投資・減価償却費予想



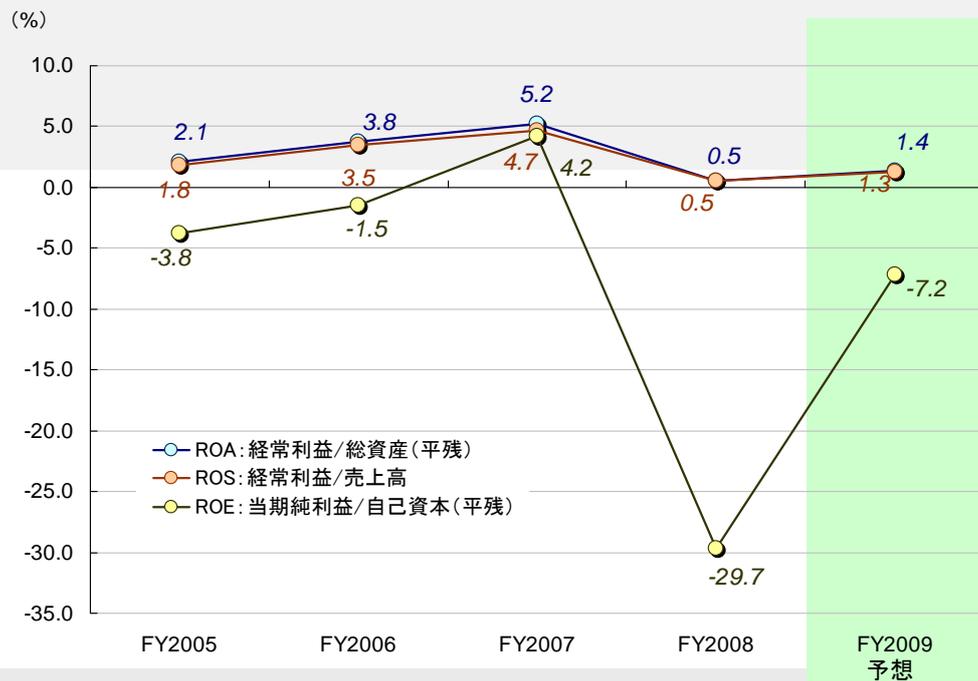
23

- 設備投資と減価償却費の予想について。
- 設備投資は 330億円、減価償却費は 470億円に見直し。



- キャッシュフローの予想について。
- 見直しにより、投資キャッシュフローの減少があるものの、来年度の旺盛な需要に備えた在庫の積み増しによる営業キャッシュフローの減少により、フリーキャッシュフローは前回予想と変更なし。

## 主な経営指標の推移



25

- 以上の業績予想に基づく、主な経営指標は、  
ROA 1.4%、  
ROS 1.3%、  
ROEは マイナス 7.2%。

- 以上

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION